

◎勉強会の内容

【目的】集合演算の基本+αを理解する

- ・集合演算とは何か?
- ・構文のルール
- 実際の使われ方、試験での問われ方など
 - ※情報処理技術者試験の対策を含む

【目標】構文を見て、何をしたいのかが分かるレベル

※注:今回は入門編として、一部のみの説明となります。



○ タイムテーブル

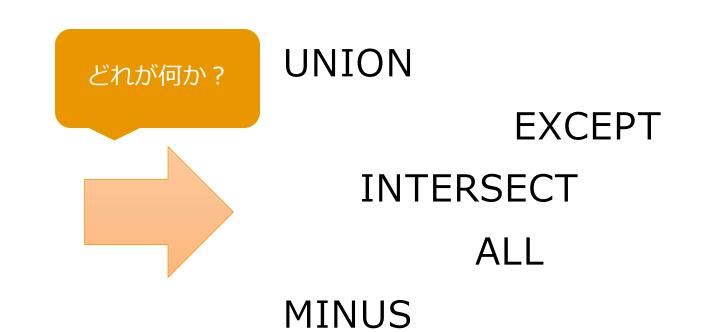
- 19:00 事前説明
- 19:10 集合演算の概要(種類など)
- •19:20 演習①:和集合の基本パターン
- ※19:55~20:00 休憩
- 20:00 演習②:項目を抜き出して集合する
- ※20:30 終了予定



● 集合演算の概要

【主な目的・機能】

- ・和集合を求める
- 積集合を求める
- 差を求める



【補足】

- 集合の結果、全く同じデータが存在する場合に残すか 集約するか、構文により異なる。
- ・上記の違いにより、ソート有無や性能に差がある。



○ 演習①:和集合の基本パターン

【参考資料】応用情報技術者試験(令和2年 秋期)午前:問29

問29 "東京在庫"表と"大阪在庫"表に対して、SQL 文を実行して得られる結果はどれ

か。ここで、実線の下線は主キーを表す。

東京在庫

商品コード	在庫数
A001	50
B002	25
C003	35

大阪在庫

商品コード	在庫数
B002	15
C003	35
D004	80

実際にテーブルを作成し、 SQLを実行して確認する。 (※別途準備)

[80L X]

SELECT 商品コード, 在庫数 FROM 東京在庫 UNION ALL

ELECT 商品コード, 在庫数 FROM 大阪在身

ア	商品コード	在庫数
	A001	50
	B002	25
	B002	15
	D004	80

ウ 商品コード	在庫数
A001	50
B002	25
B002	15
C003	35
D004	80

商品コード	在庫数
A001	50
B002	40
C003	70
D004	80

商品コード	在庫数
A001	50
B002	25
B002	15
C003	35
C003	35
D004	80

◆学習のポイント

- UNION ALL の理解
- 『ALL』を外すと?
- ※おまけ:正解以外の選択肢にする には、どういう構文にするか?



演習②:項目を抜き出して集合する

【参考資料】応用情報技術者試験(令和3年 秋期)午前:問29

"部門別売上"表から、部門コードごと、期ごとの売上を得る SQL 文はどれか。

部門別売上

部門コード	第1期売上	第2期売上
D01	1,000	4,000
D02	2,000	5,000
D03	3,000	8,000

[問合せ結果]

部門コード	期	売上
D01	第1期	1,000
D01	第2期	4,000
D02	第1期	2,000
D02	第2期	5,000
D03	第1期	3,000
D03	第2期	8,000

ア SELECT 部門コード, '第1期' AS 期, 第1期売上 AS 売上 FROM 部門別売上

INTERSECT

(SELECT 部門コード, '第2期' AS 期, 第2期売上 AS 売上 FROM 部門別売上)

ORDER BY 部門コード, 期

イ SELECT 部門コード, '第1期' AS 期, 第1期売上 AS 売上 FROM 部門別売上

UNION

(SELECT 部門コード, '第2期' AS 期, 第2期売上 AS 売上 FROM 部門別売上)

ORDER BY 部門コード, 期

実際にテーブルを作成し、 SQLを実行して確認する。 (※別途準備)

◆学習のポイント

- 自分自身を集合の対象にする
- 根拠(内訳)を説明できるか?
- 集合演算以外での実現方法は?

※余談:出題としては特殊

ウ SELECT A. 部門コード, '第1期' AS 期, A. 第1期売上 AS 売上 FROM 部門別売上 A

○ まとめ

- ・『ALL無し』は重複を排除するが自動でソートがかかり、 『ALL有り』に比べると性能は良くない(同じ結果になるなら『ALL有り』を使うのが一般的)
- •集合する対象の項目が揃ってさえいれば、テーブルの種類は 問わない(自分自身の複製も可)
- •情報処理技術者試験ではUNION (UNION ALL) の出題頻度が高い。それ以外はあまり題材にならない。

